

災害復旧事業によせて

平成20年8月28日からの豪雨等に伴う 災害状況とその対策等について



愛知県幸田町長
近藤 徳光

1. はじめに

このたび、全国防災協会機関紙「防災」への寄稿の機会を頂戴しましたことに対して、深く感謝とお礼を申し上げます。

幸田町は、愛知県の中央南よりに位置し、人口は、約37,269人、面積は56.78km²で東南にかけて赤石山脈の支脈、主峰、遠望峰山が連なり南部には三河国定公園三ヶ根山がそびえ、西部は木曾山脈の支脈が連なり、三方山に囲まれた大部分は洪積台地で、中央低地は第4紀層より成り遠望峰山に源を発する広田川は町の中央を北に流れており、主としてこの流域に沿って耕地が拓け山麓小丘に集落を形成しています。

かつては純朴な農村として発展してきた町でした。その後、温暖な気候、JR東海道本線、新幹線、国道23号・国道248号などの広域基幹交通網の要衝としての立地条件ならびに三河地方における自動車産業を中心とした内陸工業の集積を背景として、都市化が進みました。

その結果、今なお田畑や里山などが身近なところに存在し、美しい自然環境を備えた農村的な面影を色濃くのこした町であると同時に多くの優良企業が立地して高い工業生産を維持するとともに、近年では、名古屋圏における住宅地や商業施設の立地が進むなど、都市的特徴を高めている町であります。

本町では、町の施設や事務事業を進める上で環境基本計画に基づき環境への負担低減と環境保全活動に対する取り組みを継続的に推進し、町の将来都市像でもある「人と自然を大切にする緑住文

化都市」の実現を目指しております。

2. 平成20年8月末豪雨

平成20年8月26日に、前線を伴った低気圧が東シナ海を東に進み九州南部に接近しており、これに伴い27日にかけては西日本の太平洋側を中心に南から暖かく湿った空気が流れ込み大雨となりました。また、この低気圧が日本の南海上に進み8月28日から31日にかけて、本州付近に停滞した前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込みが強まり、大気の状態が不安定となって、東海・関東・中国及び東北地方などで記録的な豪雨となりました。

本町においては、愛知県西三河南部に29日午前0時06分に「大雨・洪水警報」が発令され、午前1時までには34.5mm、2時までには150mmを記録し総雨量404mmを観測するなど記録的な大雨となり、床上浸水24世帯、床下世帯64世帯、田畑冠水212ha、1級河川広田川破堤1箇所被害が発生しました。

過去に愛知県では昭和34年9月伊勢湾台風、昭和49年7月豪雨、昭和51年9月台風17号、平成3年9月台風18号、平成12年9月東海豪雨と大きな災害に見舞われています。

本町においては昭和57年と平成12年にもこの1級河川が破堤するといった大きな被害が発生しました。

今回の平成20年8月末豪雨は近年の豪雨の特徴とされる降り方で、限定された地域において短時間に集中的に雨が降ったことにより、河川増水・



広田川破堤箇所



田畑の冠水

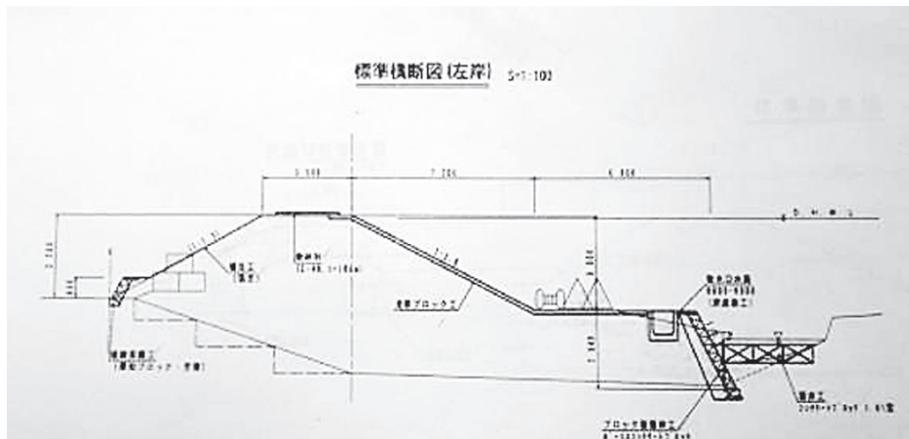
越水・破堤といった状況になり、道路の損壊・冠水、停電等により町内全体の状況を迅速に情報収集が困難になり、初動のための適切な情報の収集・共有の重要性を改めて認識させられました。

3. 復旧に向けて

菱池開墾地域に甚大な被害をもたらした1級河川広田川に内閣府防災担当大臣による政府調査団及び国土交通省災害緊急調査団による視察も頂き排水ポンプ15基による排水の汲み出し、愛知県による大型土のう、接続ブロックで応急の仮締め切



仮締め切工事（夜間作業の様子）



工法図（本復旧標準断面図）



仮締切の完成状況



冠水箇所の排水作業

り対策を実施、自衛隊・中部地方整備局による浸水家屋の復旧支援及び広田川締め切り支援活動をし、今後は愛知県において平成20年度中の本復旧を予定しています。

4. 災害に強いまちづくりに向けて

本町の治水対策は、1級河川広田川の河道拡幅改修を早めていくことが肝要ですが、完了までには相当な年月が必要となることから流域の岡崎市、西尾市、幸田町など2市3町と愛知県で広田川流域治水対策検討会を設置し、今回の平成20年8月末豪雨による浸水被害を踏まえ、今後遊水地計画や支川も含めた緊急的な治水対策として効果的な整備のあり方を早急に取りまとめていく

ものであります。

また、本町ではこの大災害を教訓に、町民の生命財産を守り、被害を最小限に留めることを目標に掲げ、災害に強く「安全・安心」な町づくりを目指して取り組んでおり、災害時要援護者支援や自主防災組織強化と連携をして災害に強い町づくりを進めているところです。

最後に災害復旧に際し、防衛省、国土交通省、愛知県をはじめ多くの関係機関各位から賜りましたご支援に対し、心から謝意を表しますとともに、今後とも災害に強い町づくりに努力いたす所存でありますので一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます、この稿を終えます。